

# 経営比較分析表

佐賀県 鹿島市

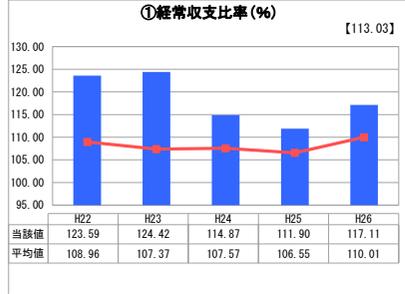
業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A6
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	62.31	86.68	3,888

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
30,829	112.12	274.96
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
26,524	28.23	939.57

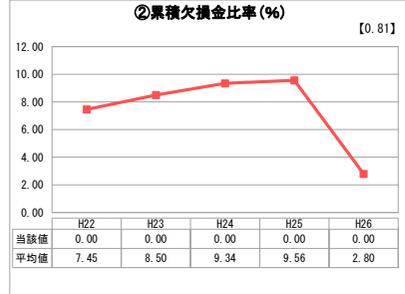
**グラフ凡例**

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成26年度全国平均

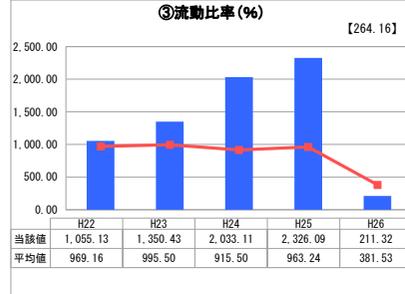
## 1. 経営の健全性・効率性



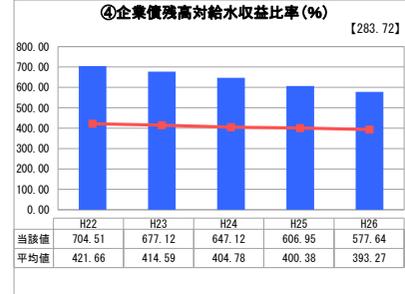
「経常損益」



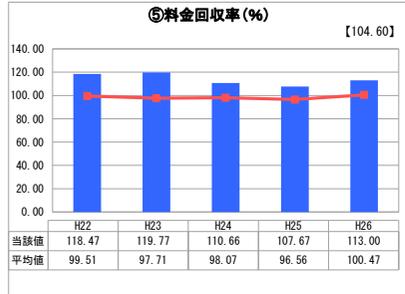
「累積欠損」



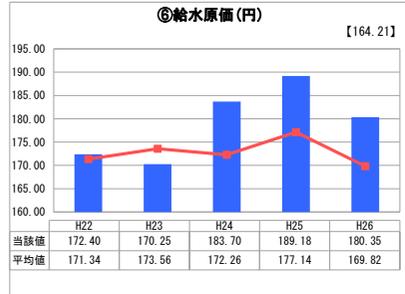
「支払能力」



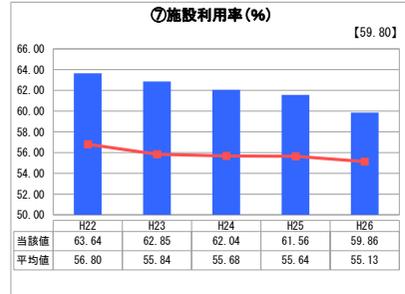
「債務残高」



「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

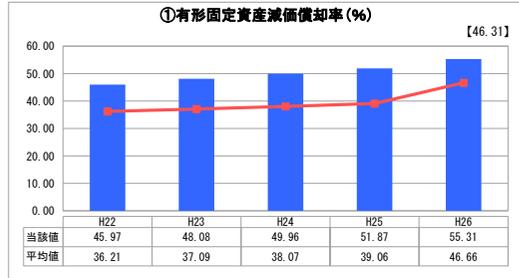


「施設の効率性」

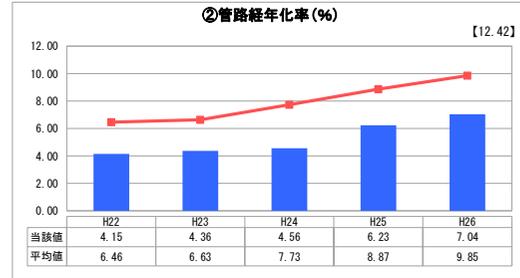


「供給した配水量の効率性」

## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

厳しい経営環境の中、当市の経常収支は黒字で、累積欠損金もありません。  
 流動比率は、平成26年度の公営企業会計制度の見直しにより低下したもので、経営状況が大きく変化したものではありません。  
 給水収益に対する企業債残高は平均値より高く推移しているものの、着実に企業債残高を減少させており、平均値との差は年々縮小しています。  
 給水原価は平成24年度からダム使用権の減価償却開始と公営企業会計制度の見直しに伴う費用増加のため平均値より高くなっていますが、今後は平均値との差は縮小すると見込んでいます。  
 有収率は平均値に対し若干低く推移していますが、平成24年度から計画的に市内の漏水調査を行っており、その値は年々改善しています。

### 2. 老朽化の状況について

当市の有形固定資産は平均値より減価償却が進んでいますが、耐用年数を超えた管の割合は平均より少ないため、今後耐用年数を超えた管の増加が見込まれています。  
 平均値と比較して管路更新も進んでいないため、企業債償還負担が軽くなる平成31年度以降は今までに以上に管路更新を進めていく必要があります。

### 全体総括

経常収支が黒字で推移しているものの、管路更新の課題があるため、今後も経営の健全性・効率性を向上させる取り組みが必要となります。  
 そのため今後は財政見直しを根拠にしたアセットマネジメント(資産管理)計画策定に組み込み、計画に基づいた管路の更新を着実に進めていきます。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。